2020 年 11 月
アイカ工業株式会社

2021 年 3 月期 中間決算説明会 質疑応答

Q1. 説明資料の 11 ページに上期の建装建材の新規連結会社への影響は▲496 百万円とあるが、17 ページに通期で▲220 百万円を見込むとあります。新規連結のウィルソナートおよびアイカ・HPL・トレーディング社（AHT）の PMI の状況を教えてください。

A1. PMI は今のところ大きな支障なく進んでおります。
ウィルソナート 4 社につきましては、タイと上海が主要拠点です。アイカからの出向者を派遣しており、マネジメント、製造、営業、技術などについて、様々な話し合いをし、技術提供や営業面での協業について進めています。しかし、買収直後にコロナ禍に見舞われ、中国とタイが大きな影響を受けました。上期は、のれんの費用を吸収しきれずに、営業利益でマイナスに働きました。足元の状況で言いますと、7 月以降から中国においては市況が戻ってきており、売上はほぼ前年並みになっています。タイもそれなりに回復基調です。利益面においては、下期からのれん償却費用をカバーして、利益プラスに寄与する見込みです。
ベトナム AHT 社もコロナ禍の影響を受け、必ずしも本来の売上ではありません。利益はなんとか確実に残しながら進めている状況です。アイカ・ラミネーツ・ベトナム社で作ったメラミン化粧板をベトナムで販売するというシナジーを進めています。

Q2. 今後の海外 M&A の進捗などあれば教えてください。

A2. 今後の M&A につきましては、引き続き積極的に案件とチャンスを捉えて取り組んでまいります。
中国においては、化成品事業も建装建材事業も設備投資を中心に行っていきますので、M&A は、東南アジア地域の化成品および機能材料分野で積極的に検討しています。また、東南アジアでメラミン化粧板の生産拠点を手に入れましたので、将来的には建具や建材など周辺部材の M&A も積極的に展開してまいります。米国・欧州につきましては、現段階でコロナウイルスの問題もあり、検討案件には入っておらず、来期以降になると思われます。

Q3. AS 商品の上期の規模と伸び率、およびウイルテクトの現状について教えてください。

A3. AS 商品の上期売上は約 69 億円、対前年で 95.5%でした。通期目標は 178 億円、対前年 112%ですが、コロナウイルスの影響でどうなるかは若干不透明です。
ウイルテクトにつきましては、上期売上が約 1.4 億円、対前年 2,500%と大きな伸びを示しております。小中学校から大学にいたる様々な学校の机、トイレのブースの壁、市役所等の公共施設、病院の手術室、病室、医療用のワゴン、PCR 検査ブースの壁材など、多くの用途に使われ始めています。今期売上は 5 億円を見込んでおり、3 年後にはシリーズ全体で売上を 50 億円まで引き上げる計画です。

Q4. 来期の住宅・非住宅の着工見通しの水準について、教えてください。

A4. アイカ需要期にタイムラグを調整した今期の着工見通しは、住宅が▲10%、非住宅が▲9%です。住宅でしたら 3~6 か月、非住宅は 9 か月ほど、着工から遅れて当社業績に影響します。
来年度につきましては、建築経済研究所などの外部機関から来期予測が出始めております。住宅はある程度改善、非住宅も今期よりはやや改善し、今の足元の状況は住宅・非住宅ともに改善すると見ております。
※ 説明資料の 27 ページ参照

Q5. 国内・海外の正常化のタイミングについてどのようにお考えでしょうか。

A5. 正常化のタイミングは、今のコロナ禍の中で申し上げるのは難しいですが、国内の 10 月、11 月は、回復基調で推移しております。まだ前年は超えておりませんが、それに近い数字も出始めています。但し、コロナウイルスの第 3 波がきている中、先行きは不透明な状況です。一方、海外はインド、インドネシアがまだコロナウイルス影響を受けており、マレーシアでも部分的にロックダウンが生じるなど、完全な正常化はまだ見えておりません。いつ正常化するとは申し上げにくい状況です。

Q6. パッシブウォールが伸びているということですが、足元の売上規模と今後の見通しを教えてください。同様に他にも脱炭素社会に関連する商品があれば教えてください。

A6. パッシブウォールは、塗り壁材のジョリパットに外断熱を組み合わせた商品で 2019 年 7 月に発売し、今期上期の売上は 4,300 万円、対前年で 125%でした。
他の気候変動対応商品につきましては、遮熱塗料のジョリパットフレッシュクール、断熱材向けフェノール樹脂、太陽光パネルのフレーム枠用途のホットメルト接着剤、LED の光拡散用の有機微粒子、LED 用封止剤向けのシリコーン樹脂などが該当します。

Q7. 現在の中計は今年で最終年度となりましたが、新中計は策定されるのでしょうか。発表時期や年数等決まっていることがあればお聞かせください。

A7. 新中計は、既に発表しているアイカ 10 年ビジョンの中の第 2 フェーズになります。第 1 フェーズである現中計の期間は、4 年ですが、新中計の期間は 3 年です。そして最終の第 3 フェーズも 3 年となる予定です。発表は 4 月の上旬か、4 月下旬からゴールデンウィーク前に行う本決算の発表のタイミングか、そのどちらかになるかと思います。決まり次第、ご案内いたします。

Q8. 説明資料の 23 ページで中国に新工場の建設を検討しているとあったが、新工場を建設するとどの程度の事業規模拡大が見込まれるのか、スケジュールは何年ほどかかりそうか、見通しを教えてください。

A8. AAP の南京拠点のすぐ横にある南京ゾンテン社は、現在は稼働していない休眠会社ですが、ここに設備投資を行います。主に化成品の生産を行う予定ですが、ウィルソナートの中国を買収していますので、このウィルソナートに供給するメラミン化粧板も一部製造していきたいと考えております。
時期は、2022 年の第 1 四半期に製造開始を目指しております。この設備投資により、AAP としては新規で生産を開始することになるノボラック型のフェノール樹脂と、現在 AAP の南京拠点でも製造しているレゾール型のフェノール樹脂をあわせた事業規模は、3 年後売上高約 60 億円程度を想定しておりますが、具体的な計画策定は今後詰めてまいります。